

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(シーティング・ポジショニング)

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ① ポジショニングの基礎知識を身に付ける
- ② 体圧測定器を利用したエビデンスのあるポジショニング・シーティングの提供ができる
- ③ 褥瘡委員会と連携し、褥瘡の新規発生率を下げ、治癒率を向上する

● 構造 structure

PT2名、OT1名で構成(うち褥瘡委員2名)
褥瘡委員会とも連携し、車いすクッションの購入やポジショニングを共有
今年度より体圧測定器(パームQ)を利用したポジショニング・シーティングを検討
ケアマネと連携し、福祉用具業者よりデモ品貸与の協力

● 過程 process

- ① ポジショニングに関する文献抄読を実施。物品や除圧などの基礎知識を学習
- ② 体圧測定器の使用方法を学習
- ③ これまで座り心地や座位姿勢のみでの購入であった車いすクッションを、体圧測定器を使用して除圧の観点も含めた提案を開始
- ④ 褥瘡委員会の外部講師招聘の研修にて、マイクロクライメット(高温多湿)という新しい考え方を学習
- ⑤ リハ部全体で、典型的な3事例に関して検討会の形で研修を実施
- ⑥ 体動困難な6階入所者に対し、全症例の褥瘡好発部位(仙骨、腸骨、両臀部、踵)の体圧を計測し、40mmHg以上の場合にポジショニングを再検討
- ⑦ 外部研修に2名参加し、ポジショニングの最新情報やシーティングの考え方などを学習
- ⑧ クッションデモを利用し、有料老人ホーム等の入所予定者への購入促進

● 結果 outcome

- ① 3~5階の車いす利用者47名(転帰先未定:5名 在宅復帰予定のため未購入:10名
購入済:11名 私物持参:5名 提案中または予定:13名 購入困難:3名)
- ② 圧計測器を活用したポジショニングの提案
- ③ 通所におけるレンタル品クッションの妥当性の検討
- ④ 委員会研修も含め、外部講師による研修を年2回受講
- ⑤ ④の研修からデモ品の再選定(シーポス→タカノクッション、5cmの厚みを最低限とする)
- ⑥ 昨年度と比較し、褥瘡の新規発生率は低下。一時的な発赤は対応スピードを早めることで治癒率向上しながら、前年度と比較し持ち込みのD2以上の褥瘡が増加傾向。

《次年度持ち越し課題》

老朽化したアロンの車いすクッションの代替案の検討、車いすを含めた包括的なシーティングの検討
タオルケットや布団などのクッション代替用品を利用したポジショニングの検討